

交流・文化施設等整備検討委員会 第8回委員会

会 議 次 第

日 時：平成21年2月20日(金)午後3時～5時(予定)

場 所：市民プラザ・ゆう 2階会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 事

(1) 第4回専門委員会の報告と内容の検討について

(2) その他

4. 閉 会

資料

- ・第4回専門委員会の概要
- ・第4回専門委員会資料
- ・専門委員会の意見から検討すべき課題

第4回専門委員会の概要

日時等 平成21年1月20日(火)午前9時から11時10分まで 上田駅前ビルパレオ2階会議室
会議内で出された意見

(基本コンセプトについて)

- ・「育成」の部分が重要。たとえ異質であっても作家の個性を認めていく方針が必要。
- ・文化芸術で社会貢献したいと考えている人々が集まり語れる場所とする。

(大ホールについて)

- ・舞台後部ガラス壁について、特徴づけや景観配慮としては良いが、コスト・音響・使用頻度の面で非現実的。
- ・1,600~1,700席は本当に大規模、運営には覚悟が必要。舞台寸法なども平均より大きい。
- ・身体障がい者席を鑑賞しやすい場所に配置できないか。

(小ホールについて)

- ・ロールバックと移動席による平土間方式で、多目的(展示、演劇、体育館的利用等)とする。
- ・移動席は手間がかかり、ロールバック席も歩けば音が鳴るため、音響に優れた固定席が良い。リハーサル室を多目的にすればよい。

(美術館について)

- ・福祉的な意味を含めエイブルアートや子どものアトリエ、ワークショップ的なスペースが必要。また、それをリードする人材も必要。
- ・エイブルアートという言葉の定義が定まっていないため、また意味も広がってきているため、別の言葉で表現すべき。また、子供たちのアートという観点を含める。
- ・身体障がい者も含めて誰もが同じ目線で鑑賞できる工夫が必要。

(交流施設について)

- ・交流施設にも哲学が必要。エイブルアートなどで交流と美術を重ねるなどの個性が必要。

(緑地・広場について)

- ・イベントステージはイベント時に設営すればよい。スポーツ広場の利用も必要。
- ・隣接の商業施設や公共施設との関りが重要、基本的な方針を発信しておく。

(利用料金について)

- ・文化団体が無料で施設を使用するような場合も、その団体がどのように社会貢献するかを提示できれば良い。

(中間報告について)

- ・ホール席数の理由、建設費、運営費、市民負担を記載する。
- ・都市再生にとって文化施設の位置づけは重要、市全体のために役立つというアピールが必要。

(これまでの検討過程の中で出されている市民要望・委員会意見、考え方等)

(施設整備イメージ(中間報告 素案))

施設整備についての市の基本方針

「交流・文化施設」及び「市民公園・広場」からなる新上田市のシンボルとしての施設整備

- ・「交流・文化施設」とは、現上田市民会館の移転を前提に、文化的機能を加えた施設
- ・「市民公園・広場」とは、芝生広場を中心に、既存林保全や親水空間にも配慮する。

(市が予定する施設の整備イメージ)

位置 / 千曲川に面して整備を行う。(天神三丁目地区土地区画整理事業公共用地)
面積 / 40,000~45,000㎡程度となる。(約4,400㎡の都市公園を一体的に利用)
全体整備費 / 用地費を含め、150億円を上限と見込んでいる。

施設整備の概要

天神三丁目地区土地区画整理事業地内(JT上田工場跡地)公共地区における施設整備については、
中心市街地の一角に位置するという立地特性
民間と行政との協働で取り組んでいる区域全体の開発コンセプト
前項でまとめた整備にあたっての基本理念・基本方針
に基づき、次のとおり各施設整備をおこなうものとする。

整備施設内容

- 「交流・文化施設」(大・小多目的ホール、美術館・ギャラリー、及び付帯施設)
- 「市民緑地・広場」(芝生広場、賑わい・交流広場、桜並木)
- 「駐車場」

施設が果たす役割

- 「鑑賞」、「交流」、「創作」、「育成」

施設全体

『交流・文化施設』

- 【用途】 多目的ホール(大、小)・美術館・ギャラリー・交流機能を併せ持つ施設
- 【構造】 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- 【規模】 延べ床面積 16,000㎡~17,000㎡程度
- 【施設構成】 ホール部門、美術館部門、交流部門、管理部門

『市民緑地・広場』

- 【広場】 広い芝生広場を中心に市民広場を整備する。
- 【賑わい交流拠点】 市内外から多くの人々が集い、賑わうことができる空間を整備する。

『全体』

- 【駐車場】 交流・文化施設用、市民緑地・広場用の駐車場を設ける。
- 【利用者への配慮】 ユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮し、高齢者や障がい者などすべての人が等しく利用でき、また使いやすい施設・設備とする。
- 【防災対策】 交流・文化施設においては、火災、地震などの災害時の安全対策を十分行うと共に、避難所としての設備、備品を備えます。

ユニバーサルデザイン：バリアフリー概念の発展形。「できるだけ多くの人々が利用可能なデザインにすること」が基本コンセプト。
デザイン対象を障がい者に限定していない点が一般に言われる「バリアフリー」とは異なる。

【市民要望、委員会意見】

- ・市として何をを目指すのか明確にすべき。
- ・使命や特徴を明確にすべき。
- ・「福祉」の要素を取り入れるべき。
- ・「交流」の要素が非常に重要。
- ・都市戦略プログラムを作成すべき。

【施設整備の考え方(案)】

この施設が文化芸術のシンボル拠点として新たな創造と交流が行われ、文化の向上をとおして、人が、まちが、豊かに育まれる新上田市を目指します。

また、広範から人々が集い、憩い、交流する場として、賑わいや活力を創出し、魅力溢れるまちづくりへの架け橋にします。

【目的】

人にやさしい 交流の輪が広がる
創造都市うえだ

【目標】

新上田市、東信濃地域に広がる文化圏のシンボルとなる施設

市民が誇りに思い、愛され、上田市のみならず東信濃地域全域から人々が集まる施設

「歴史や伝統に学ぶ文化の薫るまち」実現に向けての中核となる施設

上田市文化振興基本構想実現のための施設

新たな交流や賑わいを創出し、地域の活性化につながる施設

世代・地域を越えた人々の交流や、教育・福祉との連携による新たな交流や賑わいを創出する施設

市民誰もが等しく気軽に利用でき、親しみ、憩える施設

子どもやお年寄り・障がい者など、誰もが等しく利用でき、また主体的な文化活動により、心が癒され豊かになる施設

環境、景観、安全等に配慮した、人にも地球にも優しい施設

コスト面だけでなく、デザインや安全性にも配慮した、人にも地球に優しい施設

(1) 大ホール

【市民要望、委員会意見】

[市民要望]

- ・ホールのアンケート結果で市民が望む催し物として
 - 1位クラシック音楽、
 - 2位演劇・ミュージカル、
 - 3位ポピュラー音楽
- ・一流音楽家や有名アーティストの公演、長野、松本で行われるものと同レベルの公演を望む
- ・演劇用の800席程度のホールも欲しい。

[委員会意見]

- ・大ホールは最低1500席以上必要
- ・舞台は客席数、ホール容量に見合った舞台間口の確保と音響反射板を設置した際にゆとりのある袖スペースの確保

[専門委員会意見]

- ・上田市の規模で1800席以上は明らかに不要
- ・一流クラシック等に対応し講演会も可能な劇場型多目的ホールとなれば、数十年に亘り文化の重要拠点となり得る。

【施設整備の考え方(案)】

『客席』

- ・大規模なホールを望む声もあるが、コスト面運営面等も考慮し、長野市・松本市との機能分担を図るとともに、基本コンセプト実現のために最も適した規模として1600席から1700席の大ホールとする。
- ・公共ホールとして様々な市民の要望に応えるために多目的ホールとするが、市民全体としてはクラシック音楽、若年層ではポピュラー音楽の要望が高いため、高い音響性能とそれらの興行が可能な規模が必要
- ・客席は、出演者と観客が一体感、親近感、臨場感を持てるよう配慮する。
- ・多様な規模・内容の公演等に対応し稼働率も上がるよう、席数可変装置を設ける。

『舞台』

- ・舞台は多目的に利用が可能なプロセニウム形式（額縁形）とし舞台裏も含めて必要な諸設備を整える。

(1) 大ホール

【規模（客席数）】

客席数は1,600～1,700席程度とする。

【特徴】

音響性能を重視しながら多様なジャンルに対応した多目的ホールとする。

【客席形状】

- ア、客席は、出演者と観客が一体感、親近感、臨場感を持てるよう2階席構造とし、舞台までの距離は最大30m程度とする。
- イ、多様な規模・内容の公演等に対応しながら、高い稼働率にも配慮し、客席後部を遮断できる客席数可変装置を設ける。また、母子室を設ける。
- ウ、座席幅、間隔はゆとりのあるものとする（左右間隔55cm程度・前後間隔100cm程度）。
- エ、ホールの形状・階数等については、上記の条件をもとにさらに検討を進める。

【舞台】

- ア、舞台は、プロセニウム形式とする（間口18m、高さ12m）舞台寸法は大規模な舞台芸術にも対応出来る寸法とする（最大幅45m程度、奥行き20m程度）。
- イ、オペラ、ミュージカルを想定したオーケストラピットを設ける。また、オーケストラピットの床は舞台高さまで昇降させ舞台としても利用出来る設備とする。
- ウ、千曲川の景観を活かし特徴あるホールとするため、舞台後部を開放可能とする。

【その他構成】

舞台裏諸室（楽屋、ピアノ保管庫、倉庫、奈落等）においても快適な環境を確保する。ホワイエ等（ホワイエ、クローク、カフェ）、特に女性用トイレの数・設備に配慮する。

(2) 小ホール

【市民要望、委員会意見】

[市民要望]

- ・200席程度

[委員会意見]

- ・音響性能の高い300席の多目的ホール
- ・500席のホール

[専門委員会意見]

- ・美術館大規模展示のために共用スペースを多く持つほうが良い。

【施設整備の考え方(案)】

『客席』

- ・市民が日常的に最も利用がしやすく、ニーズが高いホールとして、200～300席程度の小ホールを整備する。
- ・大ホールをはじめ、市内他施設との連携も考慮した小ホールとする。

上田文化会館 500席
丸子文化会館 大800席、小ホール300席
ホールこだま 固定傾斜席300席

- ・市民の様々な利用に対応できるよう、床は完全なフラット形状とする。
- ・音楽関係の利用が最も多いと思われるが、様々な利用に対応出来るホールとする。

(2) 小ホール

【規模（客席数）】

客席数は200～300席程度とする。

【特徴】

市民の利用を中心とした多目的ホールとする。

【ホール形状】

多目的に利用するため平土間の箱型形状とする。

【舞台形状】

舞台は昇降式とし基本的な舞台機構（照明、吊り物用バトン、音響反射板）を設ける。

【客席形状】

客席は移動椅子を利用する。

【その他】

舞台裏諸室（楽屋、トイレ、シャワー、倉庫等）においても快適な環境を確保する。ホワイエ等（ホワイエ、トイレ）においても快適な環境を確保する。

(3) ホール共通

【市民要望】

- ・コンクールでの出番待ちのためリハーサル室、練習室を持つ施設が欲しい。
- ・舞台裏周辺は実際の使用に精通している人に設計して欲しい。

【施設整備の考え方(案)】

- ・最新のホールとして不可欠なリハーサル室のほか必要なバックヤードの諸施設・設備を整える。
- ・市民の主体的な文化活動、つまり音楽や演劇等の練習室、打合等が行える会議室等を設ける。

(3) ホール共通

【リハーサル室】

大、小ホールの舞台と同等の広さを確保した各リハーサル室を設ける。

【練習室】

防音設備の整った練習室を2室程度設ける。

【舞台裏関係】

打合用会議室や必要な倉庫を設け、また大道具の移動が容易に行える搬出入口を設ける。

(4) 美術館

【市民要望、委員会意見】

[市民要望]

- ・質の高い芸術作品を鑑賞する場としての要望が最も多い。
- ・子どもや市民自らが創作や作品の発表、体験活動を行える場としての要望も高い。
- ・学校との連携を図り子どもが夢、希望、感動と誇りを感じられる施設とする。

[委員会意見]

- ・美術館の中身は郷土作家に関連したものを入れるべき。
- ・山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタなどの業績に相応しい施設が必要。
- ・常設と企画展示は弾力的に運用できるよう固定化した設備にはしないことが望まれる。

[専門委員会意見]

- ・郷土作家の思想や影響力が重要
- ・作品保管の収蔵庫が重要
- ・山本鼎の思想からエイブルアートの展示も考えられる。
- ・郷土作家はスターではあるが、スーパースターではないので、アピールなどの工夫が必要。
- ・文化芸術は「受身」ではない「積極的福祉」といえる。

【施設整備の考え方(案)】

『展示』

- ・上田市ゆかりの郷土作家の顕彰を行う必要がある。そのためには常設展示が必要。
- ・施設全体で県展などの大規模展示にも対応できる展示スペースを確保する。

『市民ギャラリー』

- ・子どもや市民の作品を発表するための市民ギャラリーを設ける。

『アトリエ』

- ・子どもや市民の創作活動、芸術体験そのものをこの美術館の重要な事業と位置づけ、子どもをはじめ市民誰もが文化芸術と触れ合い、地域の文化力の向上につながるよう創作活動の場を整備する。

『収蔵庫』

- ・貴重な芸術作品を良質な状態で後世へと引き継ぎ、市民財産を保全していくため、必要十分なスペースと機能を持った収蔵庫を整備する。

『エイブルアート』

- ・福祉の観点から、また全国に先駆けた施設として全国に向けて発信できるよう、エイブルアートの創作や展示に対応した施設を整備する。

(4) 美術館

【施設構成】

常設展示室、企画展示室、市民ギャラリー、アトリエ、収蔵庫、管理研究室を設ける。(全体床面積2,500㎡程度)

【特徴】

- ア、郷土作家の顕彰と作品の展示・管理・保存を行う展示室・収蔵庫を設置する。
- イ、市民利用から県展・全国レベルの展覧会まで対応可能な展示スペースを確保する。
- ウ、芸術と福祉との融合を目指し、エイブルアートの展示・創作が可能な施設とする。
- エ、市民の芸術体験が地域の文化力の向上につながるよう、創作活動の場を整備する。

【常設展示室】

上田市の郷土作家の顕彰を行うため常設展示を行う。ただし、大規模展示を行う場合は企画展示室としても使用できる構造とする。500㎡程度

【企画展示室】

- ア、上田市の郷土作家に関連した企画展示や特別展示を行うための企画展示室を設ける。
- イ、大規模展示を行う場合は常設展示室の一部を一体的に利用できる構造とする。500㎡程度。

【市民ギャラリー】

市民ギャラリーは、市民や子どもの作品などを中心に展示する。300㎡程度

【アトリエ】

エイブルアートの創作を含めた、市民の創造活動を行うアトリエを設ける。200㎡程度

【収蔵庫】

- ア、作品の保管環境に十分配慮した収蔵庫を設ける。
- イ、作品を安全・円滑に搬出入できる動線と十分な作業スペースを確保する。計750㎡程度

【管理研究関係室】

美術館の管理事務室、学芸員室、資料研究室、倉庫等を設ける。計250㎡程度

(5) 交流部門

【市民要望、委員会意見】

[市民要望]

- ・市民が気軽に訪れ利用できるさまざまな機能を持った施設としての整備が求められている。
- ・市民が自由に活動や発表ができるフリースペースのニーズも高い。

[専門委員会意見]

- ・「交流」の意味として「障害者との交流」の意味を含ませる。
- ・「福祉」は重要だがボランティアに催しのお手伝いをお願いするためには、そのためのスタッフルームも必要となるので、ハードの対応も必要。

【施設整備の考え方(案)】

『共通エントランス等』

- ・施設を訪れた人々の交流、憩いの空間として、施設共通のエントランスや喫茶、売店などを設ける。

『交流室』『会議室』

- ・市民の自由な利用や美術館の展示も行えるなど多目的な部屋や各種会議に利用できる会議室を設ける。

『ボランティアルーム』

- ・コンセプトの「福祉」面での対応や、運営面でボランティアなど市民の協力を得るために必要なスタッフルームなどの施設も設ける。

(5) 交流部門

【共通エントランス】

施設全体のエントランスホールを設ける。エントランス空間内には売店、総合案内、トイレ等必要な施設を設ける。

【喫茶】

軽食もとれる喫茶を設ける。

【交流室】

会議、パーティ、展示会等多目的に使用できる交流室を設ける。

【会議室】

ホール、美術館から独立した会議室を中小2室ずつ程度設ける。

【ボランティアルーム】

施設運営に協力をお願いするボランティアスタッフ用の部屋を設ける。

(6) 管理部門

【専門委員会意見】

- ・ホールと美術館は独立した管理が必要

【施設整備の考え方(案)】

- ・管理部門に必要な諸室を設ける。
- ・美術館とホールは独立した管理運営が可能となるように施設を整備する。

(6) 管理部門

【施設構成】

管理部門では事務室、応接室、更衣室、会議室、給湯室、救護室、機械室等を設ける。

(7) 市民緑地・広場

【市民要望、委員会意見】

[市民要望]

- 花や緑が多く心が癒されるような広場を求める声が多い。

[委員会意見]

- 文化施設と公園が有効に相乗効果を持っている例は少ない。構想段階から議論されることは、精神が癒される「心の福祉施設」としての相乗効果を生む大きなチャンス。これは「活性化」や「賑わい」につながる

[専門委員会意見]

- 一般的な公演であれば、千曲川の流れを利用した水と緑の公園でよいが、施設と公園を一体の文化ゾーンとして整備するなら、一般的な公園では面白味がない。

【施設整備の考え方(案)】

- 人々の"癒し"につながる「開放的な広場」と、人々の"賑わい"につながる「交流広場」を中心に、一部既存林を生かした樹木や花、親水空間、子ども広場、ベンチトイレ等を配置する。
- 市民緑地広場全体で15,000㎡程度の面積を確保する。
- 施設と緑地・広場が相乗効果を持ち精神が癒される「心の福祉施設」となることを目指す。

(7) 市民緑地・広場

【施設構成】

交流・文化施設、駐車場の規模・レイアウト等との整合を図り、区域全体で最も効果的な配置とする。

【市民緑地】

芝生広場を中心とし、一部既存林を生かし樹木を配置する。面積は概ね10,000㎡とする。

【市民広場】

広域から人々が集い、賑わい、活力を生み出すような、また中心市街地全体への回遊につながる交流広場を整備する。

【その他】

「市民緑地・広場」内の適切な場所に、子どもたちが遊べる遊具施設、桜堤と一体となる遊歩道、千曲川と連携させた親水空間等を設ける。

【その他施設】

イベント用ステージ、ベンチ、水飲み場、トイレ等を設ける。

(8) 駐車場

【市民要望】

- 駐車場はホール、美術館、広場でイベントが同時開催されても十分な台数を確保

【施設整備の考え方(案)】

- 地方都市であるため駐車場の確保は重要。施設に必要な台数を確保する。
- 中途半端な台数では満車時にトラブルが発生する。(長野県民文化会館では500台)
- 最大利用を大ホール満席時の1,700人と想定し、うち6割が車を利用し、一台あたり2名乗車で来館すると、
 $1,700 \times 0.6 \div 2 = 510$ 台
 したがって、全体で500台程度の駐車場を確保する。

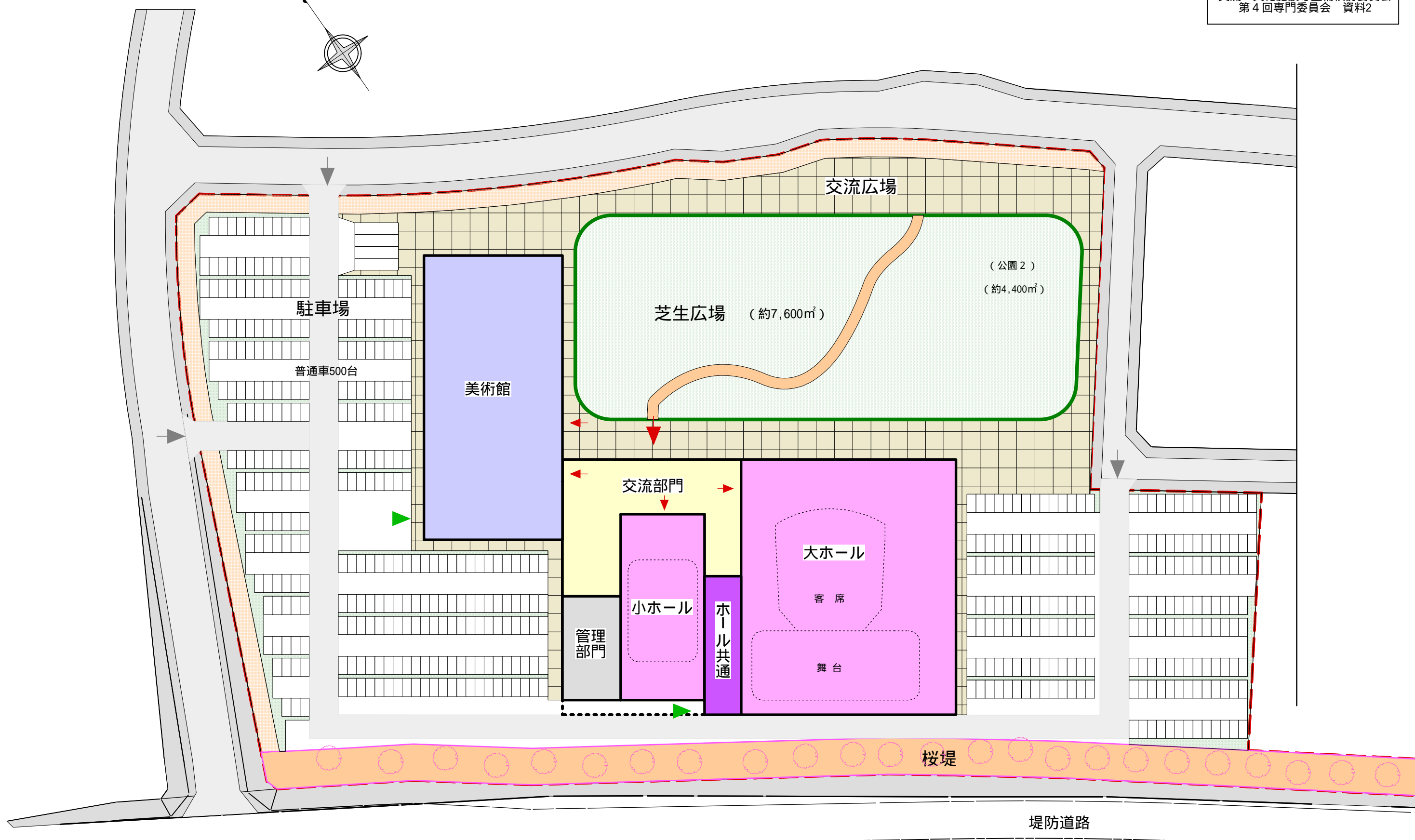
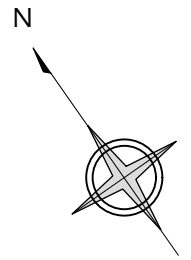
(8) 駐車場

【駐車台数】

概ね16,000㎡とし、施設全体の利用に必要な駐車場を設ける。普通車500台程度。

【位置・形状】

地区全体のレイアウト、各施設の機能、景観等の面から、駐車場の位置・形状・また構造等について検討する。



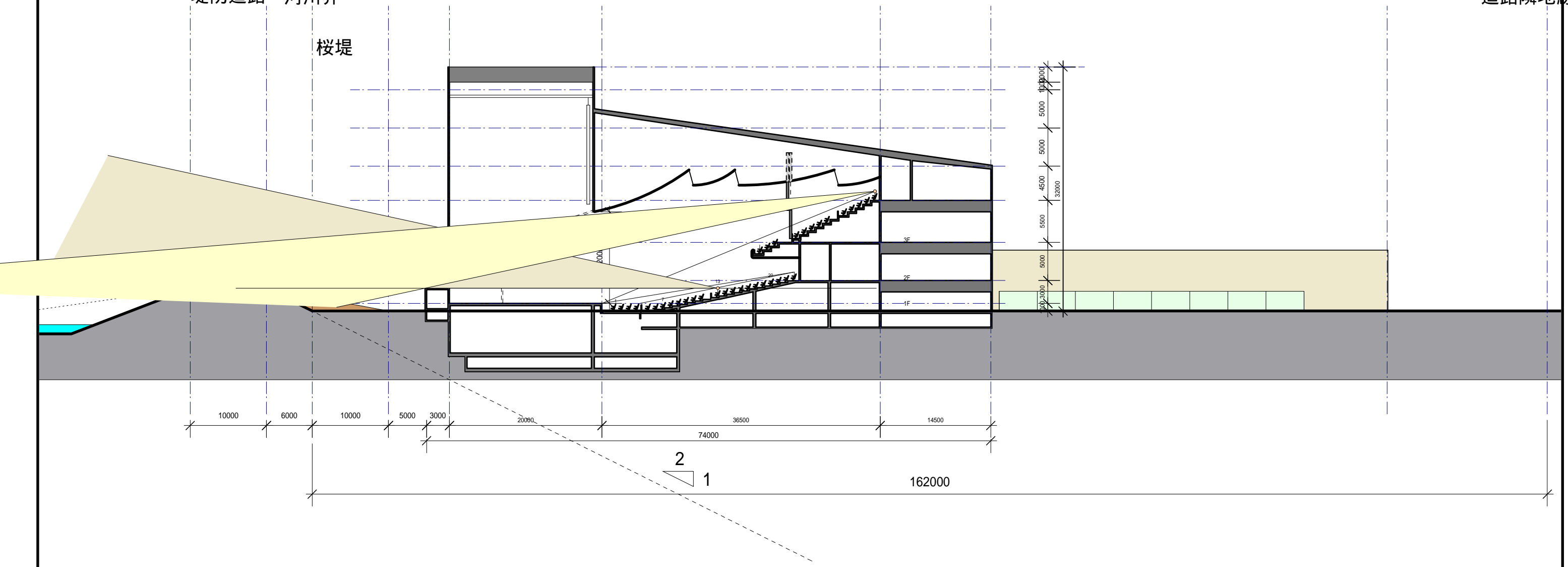
配置検討案 S=1/1,000

千曲川

堤防道路 河川界

桜堤

道路隣地線



配置(断面)検討案 S=1/500

専門委員会の意見から検討すべき課題

1 大ホールの規模、小ホールの用途と座席について

(参考となる委員意見の例)

- ・大ホールについて、1,600~1,700席は本当に大規模、運営には覚悟が必要。
- ・小ホールはロールバックと移動席による平土間方式で、多目的とする。
- ・小ホールの移動席は手間がかかり、ロールバック席も歩けば音が鳴るため、音響に優れた固定席とすべき。リハーサル室を多目的にすればよい。

2 美術館と交流施設のあり方について

(参考となる委員意見の例)

- ・福祉的な意味を含めエイブルアートや子どものアトリエ、ワークショップ的なスペースが必要。また、それをリードする人材も必要。
- ・交流施設にも哲学が必要。エイブルアートなどで交流と美術を重ねるなどの個性が必要。
- ・開館後の活動をイメージしながら施設計画に反映させていくことが必要。例えば、ボランティアの参加をお願いしたとしても、そのためのスタッフルームがなければ成立しない。

3 市民緑地・広場のあり方について

(参考となる委員意見の例)

- ・一般的な公園であれば、千曲川の流れを利用した水と緑の公園でよいが、施設と公園を一体の文化ゾーンとして整備するなら、一般的な公園では面白味がない。
- ・イベントステージはイベント時に設営すればよい。スポーツ広場の利用も必要。
- ・隣接の商業施設や公共施設との関りが重要、基本的な方針を発信しておく。